

1. 自己評価及び外部評価結果

作成日 令和6年6月28日

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4670103946
法人名	株式会社ショコラ
事業所名	グループホームショコラうすき
所在地	鹿児島県鹿児島市宇宿7丁目14番3号 (電話) 099-275-7075
自己評価作成日	令和6年5月15日

※事業所の基本情報は、WAMNETのホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.wam.go.jp/
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人NPOさつま
所在地	鹿児島市新屋敷町16番A棟3F302号
訪問調査日	令和6年6月19日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当グループホームは、宇宿の閑静な住宅地に立地しており、直ぐ近くには医療機関（しょこらクリニック）やスーパー等があり、ご利用者様にとって恵まれた環境の中にあります。ショコラグループとしては、グループホームショコラながかり、小規模多機能ホーム、かごしまショコラ保育園、しょこらクリニックの事業も行っております。ご利用者様の日常生活における活力をもたらし、生き甲斐や心の充実に繋がる環境作りにも取り組んでおりますが、新型コロナウイルス感染予防の為、交流の自粛やご家族様との面会の制限をしています。第五類へ以降し、少しずつ面会の制限を解除し、外出も行っております。まだまだ買い物など外部の方との接触は控えているのが現状です。スタッフにおきましては、「ご利用者様の為に」との思いと「今日が最期の日」という気持ちで、より良いケアを行うように毎月の勉強会を行いケアの質の向上を図りケアを行い、一日でも長く楽しい時間を過ごして頂ける様にスタッフ一同、日々努力をしております。ご利用者様とご家族様との絆や関係作りを大切に、より良い時間の提供も行っております。又、施設内での日々の生活を解かって頂く為に、日々の様子や活動参加中の様子を写真撮影し、ご家族様に閲覧して頂いたり、ショコラ便り（事業所新聞）にお便りも添えて毎月配布致しております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホームは地域住民の一員として自治会に加入しており、回覧板を通して地域の情報を収集するとともに、ホーム便りである「ショコラ便り」を添付して回覧してもらうことで、ホームの実情や活動の理解につなげている。学校や地域交流に関しては、コロナ禍以降控えていたが、現在は職場体験や高校生による実習を受け入れるなど少しずつ地域交流の機会を増やしている。また、家族との面会や外出についても、週3回の面会の受け入れや2時間という制限はあるが家族との外出を楽しめるようにと感染状況を踏まえながら対応している。

栄養士による献立を各ユニット毎に調理しており、利用者の嗜好や刻み食、ミキサー食等、個別の食事形態に配慮しながら食事を提供している。日常的に利用者が調理に参加する機会は少ないが、食事前にテーブルを拭いたり、食器を載せるお盆を拭く等、できることに取り組んでもらっている。コロナ禍以降外食を制限しているところであるが、食事が楽しみとなるようお正月や節句、運動会やクリスマス等の行事の際は行事メニューを工夫しており、今年は菜園を造る計画をしており、野菜の生育を見守ったり、収穫を行い食材として利用することができるようにと検討している。

本人の思いや暮らし方の希望を入居前の面談や関係していたケアマネや医療機関の担当者より聞き取った生活歴や入居までの経緯をフェイスシートに詳細にまとめ、日常生活の中の会話や接遇に活かしている。

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I．理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり，管理者と職員はその理念を共有して実践につなげている	理念を入口と共有スペースとご利用者様が見える側と3カ所に提示しています。毎月のユニットミーティング際に目標を設けて、目標に向けてスタッフ一人一人が目標に向けて取り組んでいます。	ユニット毎の理念を玄関やフロアなどに付く場所に掲示するとともに、毎朝唱和することで意識付を図っている。また、理念のほかに毎月の目標も設定し、毎月のミーティング時に振り返りを行い、次期目標につなげている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	中間地区の町内会へ加入しています。今もコロナ感染予防の為外部の行事への参加は控えています。コロナの状況を見つつ今後は外部の行事へ参加し交流を図って行きたいと思っています。	自治会に加入し回覧板を通して地域の情報を収集するほか、ショコラ便りを添付して回覧してもらうことでホームの活動の理解につなげている。コロナ禍以降、外部との交流は控えていたが、現在は職場体験や実習生の受け入れを再開させるなど少しずつ交流の機会を増やしている。	
3		○事業所の力を生かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて生かしている	地域の広報誌を通じて閲覧することで町内の情報を得ると共に町内にショコラがあるということを発信しております。地域の町内会との話し合い（総会、協議会）への参加し貢献に努めています。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地域の民生員や鹿児島市からも参加して頂き運営推進会議を実施しております。ご家族に対し年2回のアンケート調査を回答しやすいように無記名で実施しています。出席出来なかったご家族様へもアンケート結果を各ご家庭へ郵送しお知らせさせて頂き運営推進会議の内容を共有しています。	家族や民生委員、薬局、地域包括支援センターの職員等が参加する会議ではホームの活動内容やヒヤリハット、意見や要望等を伺う機会となっている。家族からの意見により、食事の様子をお便りと一緒に写真も添付して伝えるなど意見や提案に対して迅速に対応している。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連携を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	会合などの案内があった際には積極的に参加しています。又ホームページなどを閲覧しサービス向上に努めています。	運営推進会議で地域包括支援センター職員と顔を合わせるほか、行政からはメールにより研修案内が届くため、勤務状況を勘案しながら研修に参加している。書類提出など事務的な事柄については総務が窓口となり対応している。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	「身体拘束等適正化のための指針」を設けていつでも閲覧できるようにし、実施し定期的に身体拘束廃止の研修を行っています。研修を通じて身体拘束に関する理解を深め、実践しています。施設の施錠については日中はしていませんが防犯上20時以降は玄関施錠行っています。	「身体拘束等適正化のための指針」を設け、年4回の身体拘束廃止委員会と定期研修に取り組み、拘束の有無の確認や拘束の弊害等について意見交換している。現在、一人で出かけてしまう利用者はいないが、普段から見守りを徹底させるなど利用者の様子を確認、声を掛けるなどして利用者の気持ちを汲み取れるよう努めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待についての事を基礎知識から日頃からのケアが虐待につながっていないかを、定期的な研修を行い、職員全員で取り組んでいます。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	定期的な社内研修において地域福祉擁護事業や成年後見人制度について学び職員全体で取り組んでいます。ご利用者様が必要な方は、それらを活用できるように支援を行っています。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	丁寧の一つ一つ十分な説明を行い、不安や疑問点を伺い納得された上で契約を進める様に留意しています。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会以外でも気になることがあればいつでも言ってくれるようにご案内しております。面会に来られた際にも日々の生活の様子などお話しご家族様からもご意見を頂いたり、年2回のご家族様へのアンケートを実施し自然な形で思いを引き出せるように努めています。	運営推進会議や年2回の家族アンケートにより意見や要望を聞き取るほか、毎月送付しているショコラ便りを見た感想なども運営の参考にしている。面会や外出制限の緩和など出された意見は速やかに検討し業務改善につなげている。現在面会は週3回、自室で行えるよう制限を緩和している。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	年1回の自己評価と職員が会社を評価する機会を設け、3者面談等で意見や要望を聞き、必要に応じてその都度、個別相談にも応じている。	職員の意見は毎日の申し送り時や職員会議等において自由に発言してもらうほか、管理者は普段から職員の様子を見守り、個別に相談事や思いを伺うようにしている。また、勤務シフトへの配慮や休憩時間の過ごし方など職員の働きやすさに反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員とのコミュニケーションを図り、給与は資格だけではなく職員本人の努力や実績、勤務状況や自己評価を考慮してベースアップを決める体制にしている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎月の各ユニットのミーティング前に勉強会を行っています。回覧の中に社外研修の案内を行い、希望される方は社外研修へ受ける機会を設けています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	全職員での研修会や懇親会の機会を設け交流を図っていましたがコロナ禍の為、個別や少人数での相談しやすい環境作りに努めている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居される前に必ず見学、スタッフがご自宅や入院先へ訪問を行う様にしている。その上でご本人様が不安や要望をよく聞き受け止める様に努めている。又、他の介護保険サービスの説明をするように心掛けている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	見学の際にもお話をし、契約の際にも一つ一つご説明させて頂き、納得してもらったうえで利用して頂けるように心掛けている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	知り得た情報をミーティングを行い、スタッフ間の情報を共有し、ご本人様にとって今一番必要な支援の方法を考え、その時にあったサービスの提供、対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人様の好きな事や趣味や得意な事を引き出し長年の技や知恵を教わる事で、ご本人様の人格を尊重しながら過ごすように配慮している。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を介護される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	第五類へ以降していますが、感染予防の為面会の制限を設けています。月に一度の「ショコラだより」に日頃の様子を写真を添付とお手紙を書いてお知らせしご本人様とご家族様が良い関係を保てるように支援している。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	少しずつ緩和はしておりますが面会は制限しています。行事に関しては今はまだ控えております。その中で定期的なお電話での状況をお伝えしたりショコラだよりを通じて関係の継続に努めている。	携帯電話を所有している方がおり、家族や知人等に自由に電話することができます。また、近隣に住む知人と面会できるよう、ホーム近くを知人の散歩する時間に合わせて、外気浴を行うなど利用者の意向に合わせた支援に取り組まれている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の相性や関係性等に配慮して仲の良い方との席を近くにしたり配慮し心地よい時間を過ごして頂けるよう努めている。また他ご入居者様とも顔馴染みに慣れるようにスタッフが間に入りコミュニケーションが取れるように配慮してます。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用〈契約〉が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了時の情報提供や、その後も必要な方には継続的な支援を行っている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	「その方らしい生き方」を中心に考え、介護者の自己満足にならないようなケアを心掛けている。ケア手順書やミーティング・申し送り簿にて情報の共有を行い、ケアの統一に努めている。気づきがあった際にも情報を共有しています。	入居前の面談や関りのあったケアマネージャー等より聞き取った生活歴や入居までの経緯をフェイスシートに詳細にまとめ、また、日々生活する中で見せる新たな気付きについてもグループラインや申し送り等に情報を共有し、本人本位の暮らしにつなげている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前にご家族様や前の施設から情報を収集し、状況把握に努め、入所の際は、昔のアルバムや使っていた馴染みの物を持参して頂き、ご利用者様との会話の中でこれまでの生活環境や生活歴の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎朝の朝礼の申し送りや定期的なミーティング、ケア手順書を通じて、入居者様の状態（経過）を把握し共有しケアの統一に努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケア手順書を生かし現状を把握しつつ、本人・家族の意向を重視し、主治医や訪問看護にご相談したり、担当者会議の中でも職員も意見を出し合いながら、ご利用者様本意の介護計画の作成を心掛けている。	本人、家族の思いや生活に対する意向を詳しく聞き取り、なるべくその方の言葉をそのまま記載するようにしている。また、目標設定や支援内容については、担当職員による助言や医師、看護師、毎月のカンファレンスやモニタリング評価から判断しケアプランに反映させている。また、状況が変化した場合、その都度プランを見直し、必要に応じてプランの作り直しを行っている。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ご利用者様一人ひとりの日々の様子やケア、サービス提供の内容、健康状態なども個別に記録し、職員間で情報の共有することにより、状態の変化を継続的に見ることができる。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	建物内に通い、近隣には小規模多機能施設やクリニックも備えており、在宅復帰後も慣れた空間を継続的に利用できる様にしている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らし方を支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	利用者・消防署の隊員を交えての消防訓練を年2回行っている。散歩や外気浴の際には地域の方々から声をかけて下さったりしています。地域に開けた施設を目指している。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人及び家族の意向を第一に、かかりつけ医の選択を行っている。受診の際は家族同行を基本としているが、必要時には家族の了承のもとで職員も同行している。	本人、家族の希望する医療機関を受診することができるが、現在、利用者全員が母体医療機関をかかりつけ医として登録しており、医師や看護師による定期診療を受けている。また他科受診に関しては、職員が受診に同行するなど適切な医療を受けることができている。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎週の訪問看護にて看護職員に日常の関わりの中で得た情報や気づきを伝え相談し適切な受診や看護を受けられる環境作りに努め医療連携を行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	協力医療機関との連携を図り緊急時すぐに受け入れ体制を整えてもらえるようにしている。入院の際は、病院関係者へ情報提供を行い、退院時の際は、カンファレンスに参加しています。入院時は関係者へ連絡し状態や退院の日程を段取りを行い、早期退院を図り、退院後も、かかりつけ医と連携し早期に現状回復できるように情報収集に努めている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人や家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所される際にも説明し、終末期の際にも再度ご家族へ説明し同意を得るようにし、重度化した場合などの対応については、本人や家族からの希望を第一に考え、事業所内でも「緊急時の対応及び看取りに関する方針」において方針を定めています。	「重度化した場合における指針」「看取りに関する指針」を整備し、入居前に説明し同意署名を得るほか、「急変時や看取りについての事前意思確認書」については、入居時に加え、状況に応じて繰り返し説明と確認を行うなど、本人や家族の変化する思いに対応している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、すべての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時対応マニュアル作成し、日頃から全職員が共有できるように掲示している。応急手当や初期対応の訓練を施設内で研修を行っている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災だけでなく、地震や水害など色々な場面も想定し年2回行われる消防訓練を行っています。消防訓練後には、消防の指導を仰ぎ、反省点を次の訓練に活かしている。地域の方々やしょくらクリニックとも連携し消防訓練の際には一緒に参加し緊急時には協力を得られるよう働きかけている。	災害訓練はデイサービスと合同で年2回実施しており、うち1回は消防署立ち合いの下で実施している。訓練には母体医療機関の職員も参加して行われ、万一の際の連携、連絡体制を確認している。備蓄については貯水タンクを含む飲料水と食料、ラジオや懐中電灯等も準備している。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ご利用様の尊厳やプライバシー確保に配慮しケアを心掛けている。言葉かけの際には、声の大きさに配慮し、丁寧語で言葉かけを行っています。	倫理や接遇、個人情報保護等に関する研修を行い、日頃からトイレ誘導時は耳元でさり気なく声を掛けたり、様子を見守りタイミングを見計らいながら支援につなげている。また、バイタル類は目に付かないよう事務所内で管理するなど配慮している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の希望を第一とするために、普段から対話をしたり思いをくみ取り希望に合わせた環境作りに心掛けている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	体操・個別の運動・公文式等1日の流れはありますが、ご利用者様一人一人のペースで無理はせず参加出来るようにし、職員本意のケアにならないように努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう支援している	ホームへ出張カットを利用したりし、季節ごとに洋服などは衣替えを行い、必要な洋服や物等はご家族様へその都度連絡しお願いし購入して下さる。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事について楽しんで頂けるように盛付けや配膳を工夫し鍋料理やバイキングを行っている。端午の節句やももの節句の季節のメニューを提供し食事を楽しんで頂けるように努めています。	栄養士による献立を各ユニット毎に利用者の嗜好や刻み食、ミキサー食等、個別の食事形態で提供している。まだ外食は制限しているところであるが、食事が楽しみとなるよう、お正月や節句、クリスマス等の行事メニューを工夫しており、今年は菜園を作る計画も立てている。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事の献立は管理栄養士にてカロリー計算されており、摂取量の記録と2週に1回の体重測定を実施している。また、利用者の嚥下状態に合わせて食事形態の工夫や、介護用食品も取り入れている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の臭いや汚れが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	新しく入所された方は、必ず初回の歯科往診を行い、口腔内の状態の把握に努め必要な場合は治療や義歯の調整を行っている。必要な方にはご家族様に状況を説明し了解を頂き歯科往診治療を行っています。毎食後、口腔ケアを実施している。毎食後1日1回は職員が口腔ケアを行い、夜間は義歯洗浄剤による義歯洗浄を行っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	羞恥心に配慮しつつ一人一人の排泄パターンを把握し、本人に気持ち良く排泄してもらえるように支援している。	排泄チェック表を参考に定時のトイレ誘導のほか、様子観察によりトイレに行きたい素振りに気付いた時は速やかにトイレ誘導につなげている。また、日中はトイレでの排泄を基本とするとともに、パットの容量を日中と夜間で変化を持たせるなどの工夫もしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	常に排便の有無の状況を把握し情報を共有し便秘の日数や便の状態や量を記録している。水分摂取や体操や散歩・廊下歩行、毎日の朝食にヨーグルトの摂取やアルカリイオン水の飲用や植物繊維を積極的に取り入れるなど便秘予防に努めている。主治医との連携を図り便秘が長くならないように緩下剤を頓服にて使用し便秘改善に努めております。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援している	基本の入浴日火・木・土で決まっているが、その他の日に他の部署で協力して頂き入浴を行っています。必要な方には手浴・足浴・清拭もその都度、実施している。	週3回午前中の中の入浴が基本だが、希望があればいつでも入浴は可能である。また、入浴を楽しめるよう、ゆず湯の提供や入浴剤を使用したり、仲の良い利用者同士で入浴ができる工夫も見られる。入浴後の皮膚ケアや水分摂取についてもきめ細かく対応している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	年齢や身体状況を把握し、ご本人様への確認の上、食後の休息の時間を支援している。夜間は一人一人の就寝される時間に合わせて対応している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	毎食ごとに薬ケースに分けて、内服の際は内服ミスのないように職員2人でダブルチェックを行い服薬の支援を行っている。薬の内容が変わった時にはその都度申し送りし共有し、ケア手順書にも記載し、月に1回のミーティングの際にも薬の内容が変わった事の共有している。薬の説明書を利用者ごとの個人ファイルに添付している。利用者の変化に職員全員で気付けるように努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活暦や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	習字や色塗りやパズルを行い楽しんでおられる。食事の盛り付けや洗濯物たたみなどそれぞれの役割をもって行い、日常生活を楽しめるようにしている。散歩を行い、外気に触れ、気分転換にも行っている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるように支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日などには、気分転換や体力作りを兼ねて散歩へ行ったり、桜の季節には近くの公園へ花見に行ったり、花を見に広い公園へドライブに行ったりと出来る範囲での外出支援を行っている。	感染症予防のため、また職員数の都合もあり、なかなか外出の機会に限られる状況ではあるが、少しでも季節感を味わってもらえるようにコスモス見物やマリポートまでのドライブ、近くの公園に散歩に出かける等の機会を設けている。歩行の難しい方もデイサービスの車椅子対応車を借りて出かけることができ、また現在は家族との外出や面会などの制限を緩和しているところである。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	入居時に本人・家族と話し合い、それぞれのご入居者様の力量、希望に応じて支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	ご家族様やご友人とのお電話をお取次ぎしお話をしています。贈り物があつたときに本人からお電話をするようにしたり、頂いた物と一緒に写真を撮りお便りに添えてやりとりの支援をしています。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱を招くような刺激（音、光、色、広さ、湿度など）がないように配慮し、生活感や季節感を取り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感を感じられるように利用者様と色塗りや季節の飾り作りお花を飾ったりし、ご利用様に季節感を感じてもらえ居心地良く過ごせるようにしている。調理や洗い物、掃除をする時などは、出来るだけご利用者様に不快感を与えないように心掛け、スタッフの言動にも注意をはらい、声掛けの際は、どなたに声をお掛けしたかが分かるように声かけを行い、混乱のないよう落ち着いて過ごして頂けるように、心がけている。	共用スペースには利用者と職員が一緒に制作した季節毎の作品が掲示されるほか、七夕飾りやクリスマスツリー等も飾り付けられるなど四季に配慮している。対面キッチンからは利用者の様子がよくわかり、食事の準備がはじまると音や匂いから調理の様子を見守る利用者の表情がよくわかり、和やかな雰囲気と穏やかな時間を共有することができている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有空間にソファやマッサージ機を置き、好きな所で好きなように過ごせるようにしている。皆様、楽しい時間を過ごして頂いている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居の際にご自宅で使っていた馴染みの家具や物、昔のアルバムなどを持ち込んでもらったり、希望に合わせてベッドの配置も行い本人が居心地良く過ごせるように工夫している。	各居室には電動ベッドやエアコン、クローゼット、洗面台が備え付けられるほか、テレビや冷蔵庫、位牌やラジオ等、馴染みの品を持ち込み自由に配置している。また、新聞を定期購読したり、好きな本を持ち込むなど思い思いの時間を過ごしている	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレや浴室に手すりを設置したり、トイレの場所が分かり易く大きく表示している。動線には、物を置かないようにし、安全に歩行出来るようにしている。		

V アウトカム項目

56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1 ほぼ全ての利用者の
			2 利用者の2/3くらいの
			3 利用者の1/3くらいの
			4 ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1 毎日ある
			2 数日に1回程度ある
			3 たまにある
			4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている。 (参考項目：36, 37)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない

61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1 ほぼ全ての家族と
			2 家族の2/3くらいと
			3 家族の1/3くらいと
			4 ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1 ほぼ毎日のように
			2 数日に1回程度ある
			3 たまに
			4 ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1 大いに増えている
			2 少しずつ増えている
			3 あまり増えていない
			4 全くいない

66	職員は，生き活きと働けている。 (参考項目：11, 12)		1 ほぼ全ての職員が
		○	2 職員の2/3くらいが
			3 職員の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
67	職員から見て，利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
68	職員から見て，利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1 ほぼ全ての家族等が
			2 家族等の2/3くらいが
			3 家族等の1/3くらいが
			4 ほとんどいない